

ワークショップ 8

「大腸腫瘍診療の最前線：新しい診断・治療法をめざして」

司会 味岡洋一（新潟大学大学院病理学分野）

田中信治（広島大学大学院内視鏡医学）

大腸腫瘍の診断・治療法は近年著明な進歩を遂げ大きく変わろうとしている。診断では、画像強調拡大観察、顕微内視鏡観察などの新しいモダリティーの登場、分子イメージング、大腸 T1 癌内視鏡治療の根治判定基準における病理組織学的解析、新たなバイオマーカー、さらには AI など多方面での研究が進んでいる。治療に関しても、内視鏡では ESD における新規デバイス、全層切除術、縫縮術、外科とのコラボレーション、外科領域ではロボット手術など話題は多い。本セッションでは、大腸腫瘍診療の新しい診断・治療法をめざした最前線の発表を公募する。